

専門研修プログラム名	五条山病院連携施設 精神科	専門研修プログラム
基幹施設名	医療法人財団北林厚生会五条山病院	
プログラム統括責任者	中前知里	

専門研修プログラムの概要	<p>医療法人財団北林厚生会は昭和26年に、五条山病院は昭和29年に開設され、当法人は70年を超える歴史を持つ。奈良市内唯一の民間の単科精神病院として地域での精神科医療を実践しており、急性期の入院治療から地域での社会生活、社会復帰までをワンストップで切れ目なく支援できる体制を整え、現在奈良県の精神科医療の中核を担っている。そのため本研修プログラムでは地域での精神科医療・福祉の実際を経験することができる。また、連携施設は京都府立医科大学附属病院と第二赤十字病院であり、大学附属病院では幅広い疾患に対応しており、摂食障害、強迫症、認知症、児童精神医学領域等の入院治療を行っており、思春期青年期、老年期、強迫症、認知療法といった専門外来も設置している。また、身体的合併症治療を要する症例も多く経験することができる。京都第二赤十字病院は、京都市内の地域中核急性期病院であり、コンサルテーション・リエゾン医療やがん患者に対する緩和ケアについて、さらに救命救急センターを受診した自殺企図の症例などの経験も積むことができる。</p>	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	<p>1年目は基幹施設もしくは連携施設の京都府立医科大学附属病院で、2～3年目は連携施設もしくは基幹施設をローテートする。基幹施設では、入院及び外来症例を受け持ち、多職種チームの中心となり実際に診療に携わる。診療では専門研修指導医ら上級医師から細やかな指導と助言を受けながら、研修を行っていく。週に1回、症例検討会にて、入院患者や困難事例のカンファレンスも行っている。さらに連携施設をローテートすることで、摂食障害、強迫症、児童精神医学領域等幅広い疾患の診断や治療、総合病院精神科医療を経験することができる。また、京都府立医科大学附属病院では専攻医に対して年間を通してオンラインでのセミナーも行っている。</p>	
専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	<p>1年目は基幹施設または連携施設で、指導医と共に統合失調症、気分障害、認知症を含む器質性精神障害等の患者を受け持ち、面接技法、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学ぶ。入院患者を指導医と共に受け持つことによって、行動制限の手続きなど、基本的な法律の知識を学習する。外来業務では指導医の診察に陪席することによって、面接の技法、患者との関係の構築の仕方、基本的な心理検査の評価などについて学習する。2年目は基幹施設または連携施設で、指導医の指導を受けつつ、自立して診療にあたり、さらに診断と治療計画の能力を高める。児童思春期やアルコール・薬物依存症の症例についても経験する。他科と協働してリエゾン・コンサルテーション精神医学を経験する。精神療法として認知行動療法や力動的な精神療法の基本的考え方と技法を専門外来見学、カンファレンス、セミナーを通して学ぶ。3年目は連携施設で、指導医から自立して診療できるようにする。児童・思春期精神障害およびパーソナリティ障害の診断・治療を経験する。精神科救急に従事して対応の仕方を学ぶ。精神科リハビリテーション、産業メンタルヘルス、認知症、地域精神医療等について学ぶ。</p>
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	<p>週に1回、症例検討会にて入院患者や困難事例のカンファレンスを行っており、実際にプレゼンテーションと討議に参加することで、知識と技能の習得を行う。</p>
	学問的姿勢	<p>基幹施設もしくは連携施設においてまず症例を経験することを通して医学的な情報収集の方法を身につけ、論文の批判的吟味を学ぶ。その中で、情報発信の意義がある症例については学会発表や論文発表を通して、情報発信の手法を身につける。また、リサーチクエスションの立て方と研究計画立案について学び、臨床の中から研究につなげていく姿勢を醸成する。</p>

	<p>医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性</p>	<p>研修期間を通じて、1) 患者治療者関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 症例プレゼンテーション技術、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの獲得を目指す。加えて、精神療法、精神科薬物療法、リエゾン医療といった精神科医特有のコアコンピテンシーの獲得を目指す。地域連携をとおして他職種の専門家と交流する機会が多くあり、その中で社会人として常識ある態度や素養を求められる。また、社会の中での多職種チーム医療の構築について学習する。連携している大学病院・総合病院では、多職種チームの一員として診療に携わる中で、そしてリエゾン・コンサルテーションなどを通して身体科との連携を持つことによって、医師としての責任や社会性、倫理感などについても学ぶ機会を得ることができる。</p>
<p>施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方</p>	<p>年次毎の研修計画</p>	<p>1年目は、基幹施設もしくは連携施設において研修を行い、精神科医として基本的な知識を身につける。2年目、3年目は、基幹施設もしくは連携施設で研修を行う。精神科救急、地域医療、精神科リハビリテーションについて幅広く経験し、精神保健福祉法や社会資源の活用と多職種連携について知識と技能を身につける。これら3年間のローテーション順については、本人の希望に応じて柔軟な対応が可能である。</p>
	<p>研修施設群と研修プログラム</p>	<p>基幹施設の五条山病院は、急性期治療病棟を中心に、急性期治療に力を入れており、疾患の特徴としては、統合失調症・気分障害患者の治療を中心に行っている。そのため措置入院、医療保護入院など非自発入院の症例も多い。また、デイケアセンター、訪問看護ステーション、サポートセンター、指定特定相談支援事業所、グループホームを有しており、多数のコメディカルスタッフと共に手厚い在宅支援体制をとって、退院支援に積極的に取り組んでおり、多職種連携と地域医療を経験することが可能である。さらに、簡易鑑定の依頼など司法精神医学関連のケースについても要請に応じて対応しており、指導を受けることができる。連携施設の京都府立医科大学附属病院は、大学附属病院として幅広い疾患に対応しており、2018年9月入院病床は大学附属病院本館内に移転し、23床の閉鎖病床を有する。ほとんどの精神疾患について診療のための知識と技能を獲得することが可能であり、加えて電気けいれん療法を要する重症ないし難治性の気分障害・統合失調症の診療、手術や複雑な治療を要する身体合併症をもつ患者の診療、脳炎・脳症の鑑別や脳炎・脳症に合併する精神症状の診療、重度るい瘦を伴う神経性やせ症の入院治療、強迫症の入院下での集中的な行動療法などを経験できる。コンサルテーション・リエゾンや緩和ケアについて、他科から紹介される症例を通して経験できる。連携施設の京都第二赤十字病院は、676床を有する総合病院で、臨床研修指定病院である。外来は、神経症圏や気分障害の患者が多いが、近年は認知症や児童思春期症例が増加しつつあり、幅広い疾患の外来診療を経験することが可能である。入院は、当科独自の病棟は持たないが、1日診察患者の約15%が、他科入院中のリエゾン患者である。せん妄、認知症、がん患者に加えて、救命救急センターを受診した自殺企図例など、様々な症例を経験できる。</p>
	<p>地域医療について</p>	<p>基幹施設である五条山病院は奈良県の精神科医療の中核を担っており、連携施設の京都第二赤十字病院は京都市内の地域中核急性期病院であり、地域医療や福祉の実際を経験することができる。</p>
<p>専門研修の評価</p>	<p>週に1回程度、専門研修指導医と疑問点や課題点について話し合い、専門研修プログラムの進捗状況も確認して評価を行っている。また、年に3回（4月、7月、12月）、プログラム管理委員会で連携施設群と情報共有を行っている。1年修了時に1年間の研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。また、その結果を統括責任者に提出する。研修実績及び評価には研修記録簿／システムを用いる。</p>	

修了判定	年次ごとの研修評価を行っている。最終学年では、3年間全体を通して、専門研修プログラムで求められている経験症例などの確認を行い、終了判定をプログラム管理委員会を通して行う。	
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	専門研修プログラム研修中の医師の進捗状況の確認とプログラム全体での情報共有を行っている。
	専攻医の就業環境	各研修施設の労務管理基準に準拠するが、就業環境の整備が必要な時は、各施設の労務管理者が適切に行う。
	専門研修プログラムの改善	基幹施設の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について協議し、全体として改善の必要がないかなどの検討を行う。検討にあたっては、他職種の意見も取り入れる。
	専攻医の採用と修了	採用については、基幹施設のプログラム統括責任者らが本人の面談を行い、総合的に評価し決定する。修了においてはプログラム管理委員会にて話し合い、判定する。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	特別な事情がある場合は、研修の休止、中断などを本人とプログラム統括責任者、担当指導医で話し合い、決定する。プログラム移動についても柔軟に対応する。プログラム外研修については、要望があれば個別に相談し、判断する。
	研修に対するサイトビジット (訪問調査)	サイトビジットならびに研修内容に関する監査・調査・評価を受ける体制にある。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、 役職を記述してください。	南雄吉郎（五条山病院、理事長）、中前知里（五条山病院、院長）、神谷輝（五条山病院、医員）、飯田直子（京都市立医科大学附属病院、学内講師）、前林佳朗（京都第二赤十字病院、精神科部長）	
Subspecialty領域との連続性	本研修プログラムにて精神科領域専門医としての知識や技能を十分に習得することにより、高度の専門性の獲得を目指すことができる。	